

エーティコミュニケーションズ社が孤軍奮闘した 「危機管理産業展 2020 (RISCON 2020)」 「テロ対策特殊装備展 2020 (SEECAT 2020)」

神谷 直亮

恒例の「RISCON 2020」「SEECAT 2020」が、10月21日から23日まで青海展示場（東京ビッグサイト）で開催された。予想通り会場では、新型コロナウイルス感染症に特化した「感染症対策サポーターゾーン」や「感染症対策特別テーマ展示」が目についた。「感染症対策サポーターゾーン」を覗いてみたら、クリップ式フェイスシールド（出展者：藍通）、携帯端末用UV除菌装置（アイ・アール・システム）、水循環型ポータブル手洗い機（WOTA）、災害避難所用間仕切り（ジョイソン・セイフティ・システムズ）、ソーシャルディスタンスシールド（ニソック）などが展示されていた。「感染症対策特別テーマ展」では、最新のマスク、手袋、防護服、清浄機器、消毒除菌剤などが紹介された。

期待の衛星通信分野は、今回、常連のソフトバンク、日本デジコム、JVCケンウ

ッドが出展を見合わせたためエーティコミュニケーションの独断場となっていた。同社は、今年最も力を入れている超小型平面アンテナ「Satcube」と得意とする車載局を目玉にして出展していた。ノートPCサイズで重量わずか8kgという「Satcube」については、今回3タイプのアタッチメントが紹介され、それぞれについて実際の使い方を詳しく説明していた。まず、三脚に取り付けるタイプで、ブースではアダプターを使った取り付けデモが行われた。見ていたらわずか1分で仕上がった。用途については、人込みの中で「Satcube」を使用する場合に、障害を避けて衛星にアクセスできるのが狙いと言う。2つ目は、車のルーフに設置するタイプで、据え付けには強力なマグネットが使われていた。3つ目は、車のボンネットに置くタイプで「設置場所が傷付かないように吸盤を使用している」との説明であった。

車載局については、今回ハイエースに直径1.2メートルの「SWE-DISH DA120」アンテナを搭載して出展した。この車載局の特色としては、走行中でも使える8KVA発電機の搭載、油圧式伸縮ボールの装備、5名が向き合って会議に使える運用室が挙げられる。実車は出展されなかったが、最近完成したばかりと言うUQモバイル社向けの中継車もポスターで紹介されていた。これらの他に、「エーティコミュニケーション独自のインマルサット・グローバルエクスプレス・サービスを始めた」と語っていた。送信用には、同社が販売している「Cobham社のアンテナが最適」とPRに余念がなかった。

衛星通信に特化しているわけではないが、会場ではコーワテック社の特装車が注目を集めていた。特殊災害対策車、爆発物処理車、救助工作車、地震体験車、地中探査車、水陸両用バスなど実に多種多彩な特装車両を製作している。いすゞ中型トラックのシャシをベースにした国産初の水陸両用バスについては、「陸上走行と水上航行が常時可能で、最大乗車定員は42名」と説明していた。最高速度を聞いてみたら「陸上では約90km/h、水上では約5ノット」とのことであった。

今年のドローンの展示は、ネクシス光洋、日本海洋、東陽テクニカ、ロボティックセンター・ジャパンの4社で、センチュリー、原田物産は、出展を見送った。

ネクシス光洋は、FLIR製の次世代「SkyRanger R70」を出展し「機体に炭素繊維とマグネシウムを使っており堅牢性と信頼性を誇る。最新のAIを駆使するマルチNVIDIA TX2 プロセッサを搭載している」と説明していた。運搬できるペイロードの重量を聞いてみたら「最大2kg」との回答であった。



写真1 エーティコミュニケーションズ社は、「Satcube」をアダプターで3脚に取り付けるデモを行って関心を呼んだ。



写真2 ネキシス光洋は、今回FLIR製の次世代「SkyRanger R70」を出展して注目を集めた。



写真3 東陽テクニカは、デュアルモードカメラを搭載したOceanbotics社製海底ドローン「SRV-8」を紹介した。



写真4 3Dコーポレーションは、多種多彩な危機管理・テロ対策用の特殊カメラを出展して関心を呼んでいた。

日本海洋は、「ORION 2」と「Black Bird」の2種のドローンを紹介した。Elistair社製の「ORION 2」については、30倍光学ズーム付きフルHDカメラと赤外線カメラを搭載しており「昼夜を問わず過酷な長時間のミッションに対応できる」とPRに余念がなかった。数日の飛行を実現できる秘密は、地上からマイクロテザーを介して電力を供給することができる設計になっているためである。

Nightingale社製の「Black Bird」は、「AIによる全自動警備ドローンシステムで、不審な侵入者を見張るのに最適」と語っていた。詳しく聞いてみたら「セキュリティ警報が鳴ると警報発出地点へドローンが自動的に発信し、現場のビデオ映像を本部に送信する」との説明であった。

東陽テクニカは、Oceanbotics社製海底ドローン「SRV-8」とスロバキアのGNOM社製小型・軽量マイクロROVを披露した。「SRV-8」は、アナログナビゲーション用と録画用HDのデュアルモードカメラを搭載している。バッテリー寿命については、「最大6時間」と答えていた。

ロボティックセンター・ジャパンも今回2種類のカナダ製遠隔操作型無人潜水ドローン「REVOLUTION」と「DTG3」を出展した。両機種とも4KウルトラHDローライトカメラを搭載し、水深305メートル、視界範囲280度まで撮影ができる。主な違いは、前者の稼働時間が最長約8時間で、後者は12時間である。

ドローンの検出システムも今回はエム・イー・ジェーのみで、スリーライク、東芝エレクトロニクスシステムは顔を見せなかった。

エム・イー・ジェーは、イスラエルのAPOLLOSHIELD社製のドローン検出・定位システムを紹介した。商業用ドローンなら「99%の検出が可能」と胸を張っていた。あらゆる仰角で広範囲にドローンを検出できるRFセンサーを搭載しているのが特色である。具体的なユースケースを聞いてみ

たら「例えば、羽田空港なら3台でカバーできる」と答えていた。

危機管理・テロ対策用の特殊カメラも関心を呼んでいた。代表的な出展者は、3Dコーポレーションだ。今回同社は、小型、軽量、廉価、タフを謳った耐圧防爆カメラ「TS-EXI304ZN」と「TS-EXI130N」を出展して来場者の目を引いた。コンポーネントはステンレス製で「4倍ズーム付きカメラを完備、重量は1kg～2.5kg、氷点下25℃～65℃で使用が可能」と説明していた。今回出展していなかったが、光学自動焦点36倍ズームワイドダイナミックカメラを搭載した最強の防爆カメラも提供できるといふ。

毎回「RISCON」会場のアトラクションとして注目的になっている東京消防庁によるVR体験が今回も行われていた。大型防災体験車を持ち込んで今回大々的に提供されたコンテンツは、地震、火災、風水害である。昨年と変わったのはヘッドセットで、「Oculus Gear VR」から「PICO G2」に変更されていた。理由については、「一体型で大人数の体験デモに向いているから」と説明していた。

似たようなVR消火訓練シミュレータのデモは、近代消防社とMXモバイリングのブースでも行われていた。VRコントローラを消火器に内蔵し、実際の消火器と同じ操作を実現するのがミソである。

変わったところでは、日本エアロスペース社の「エアクリック (Air Click)」と日本無線の「アラートマーカープラス (Alertmarker +)」が目についた。

「エアクリック」は、その名称の通りタッチパネルの

画面に触れずに操作を可能にするタッチレスセンサーである。説明員によれば、「既存のパネルに簡単に設置できる。タッチレスセンサーから出る赤外線によりかざすだけで簡単に画面操作が可能である。サイズは、縦横115mm～346mmの画面に対応できる」とのことであった。さらに「羽田空港のJAL自動チェックイン機で、非接触化のトライアルを実施している最中である。除菌シートをタッチパネルに貼り付けたり、タッチペンを利用して操作したり、頻繁にアルコール消毒をしたりする運用者側の負担を軽減できる。使用者にとっても衛生面の安全と心理的な安心感を得ることができると付け加えていた。

「アラートマーカープラス」は、既存のデジタルサイネージに災害情報をプラスする混合表示システムと言ってよい。既設の多様なディスプレイのHDMIインターフェースに「アラートマーカープラス」のボックスを接続することでアラートや自治体が配信する防災メールなど多彩なメディアとの連携が可能と言うのが売り物である。ブースの説明員は、「低コストで設置が簡単なのですぐに導入ができる」とPRに余念がなかった。ボックスの価格を聞いてみたら、15万円とのことであった。

Naoakira Kamiya
衛星システム総研 代表
メディア・ジャーナリスト

SWE DISH

ニッサン新エルグランド4WD
5名定員
1.2m径・自動捕捉アンテナ搭載
車高2.2m 以下(地下駐車場可)
3.6 KVA NMG アイドリグ運用
水圧エコ・ボール4m 搭載
強化サスペンション
国内(100V)海外(240V)対応
IPコントロール
ハイビジョン映像伝送
運転席からワンマンオペレーション

SMART SNG
HD TV, 3D TV and IP OVER SATELLITE ECO OPERATION
スマート・サテライト・ニュース・ギャザリング

<http://www.bizsat.jp>



設計・製造・衛星通信のことなら
エーティコミュニケーションズ株式会社
TEL: 03-5772-9125

AI Communications k.k.